

# 中地区まちづくり事業



# 中地区まちづくり委員会

- 竹炭づくり事業
- なかなかよか市事業
- 「七夕まつり」コンテスト
- 江後鯨道海岸観光用看板設置事業

# 「七夕まつり」コンテスト



# なかなかよか市事業



# なかなかよか市事業



# H19.12.1（土）竹切り出し作業

炭焼きの材料となる竹を切り出した。

- 柳漁協前の市所地の竹林から、孟宗竹を約60本切り出し、90cmにカット、翌日の竹割り作業に準備した。
- 寺尾有志の方々に活躍いただいた。プロ集団でも『キツイ』と言われていたので、素人ではさぞかし大変だっただろうと感じた。
- 万が一に備え傷害保険に加入した。



## H19.12.2（日）竹割り作業

前日に切り出した竹を割り、節をとって、井桁に組み乾燥させた。



90 c mの竹を竹割り道具とカケヤで叩き割り、節を県林務課に借りた金槌で丁寧に取り除いた。

それを乾燥させるため、井桁に組み上げた。10山出来た竹の井桁は、ちょっとした芸術品のように見えた。

30名のボランティアが参加していただいたおかげだと、改めて感謝した。

藤島茂徳さんより手作りお菓子の差し入れがあった。味は店に出してもおかしくないと思った。

## H19.11.27（火）炭焼き小屋（ビニールハウス）建設現場の整地

炭焼き作業に使用する小屋（ビニールハウス）を建てるため、建設予定地の整地を行なった。



整地については、重機が必要なため、環境班のメンバーでもあり、現場に一番近い村田憲昭さんに依頼した。

雨対策のため溝も切っていた。



H19.11.28（水）～H19.11.30（金）炭焼き小屋建込

炭焼き作業に使用する小屋（ビニールハウス）を建てた。



整地をした後にビニールハウスを建てた。

- ハウスの骨組みは上新田の竹崎さんより無償提供いただいた。
- ビニールは田端の鶴元さんより無償提供いただいた。
- 施工については、シルバー人材センターにお願いした。
- シルバーさん達の手馴れた作業で、みるみるうちにハウスが出来上がっていった。
- ハウスが建つと、現場の雰囲気も変わり『いよいよだな』と感じた。

## H20.1.31（木）炭焼き釜設置場所の整地

炭焼き釜の設置に伴い、地盤をレベルにするため整地を行った。



釜づくりは耐火煉瓦を積むため、基礎となる地盤をレベルにする必要があるため、前回同様、村田憲昭さんに依頼した。

泥を扱う作業であったため、この日も重機を入れてもらった。

前日に雨が降っていたため、難しい作業となったが、快く受けていただいた。

## H20.2.8（金）炭焼き釜の耐火煉瓦搬入

炭焼き釜に使用する耐火煉瓦を現場に納品してもらった。



当初、荷下ろしについては人間の  
手作業と予定していたため、市職  
員を中心に多くのボランティアを  
お願いした。

- ・結果、平日にも関わらず多くの方  
が参加いただいた。
- ・しかし、搬入トラックにクレーン  
が付いていて、たまたま、運転手  
さんが操作できたので、クレーン  
の力にお任せした。
- ・1, 350個の耐火煉瓦を3回に  
分けて荷下ろししたが、これを人  
力でと思ったらゾツとした。

## H20.2.21（木）炭焼き釜補強ブロック設置

炭焼き釜の設置に伴い、釜とその周りの泥を固定するためブロックを立ち上げた。



かなりの強度が必要なため、鉄筋を入れ、モルタルを練り積み上げた。

- 素人では出来ないので、新開の多田興太郎さんに指導を仰ぎ、作業員も新開地区の皆さんのご協力をいただいた。
- 段取りも良く、新開区民のチームワークの良さで、すばらしい出来上がりであった。
- 道具についても、自前のものをお貸しいただいた。

## H20.2.29（金）炭焼き釜に屋根の取り付け

炭焼き釜に直接雨が当たらないよう、屋根を取り付けた。



炭焼き釜に直接雨が降込むと釜の管理上支障を来たすため、屋根を取り付ける必要があった。

取り付けに関しても、前回同様、新開の多田さんに施工と資材の一部をお世話になった。

北村班長の細かい注文にも対応し、炭焼き作業及び炭の取り出し作業のしやすい設計及び出来上がりとなった。

雨戸井には竹を半分に割ったものを用意し、節も完璧に取り除かれてあった。

# H20.3.22 (土) 釜出し

ドキドキ・ワクワクの釜出し。



朝、みんなが集合したころは、まだ、釜から熱気が漂っていた。上手くいけば、温度が下がっていなければいけないが。ドキドキである。

早速、蓋を開けてみた。まだ、燃えている部分があったが、炭が出来ていた。

燃えている部分に水をかけながら、取り出し作業にあたった。

益田さんいわく『半分成功、半分失敗』

最初から大成功を考えていない者にとっては、半分できれば大成功である。

# H20.3.22 (土) 焚口のやり直し

## 炭焼き釜の微調整



焚口から空気が入っていたとの分析で、焚口を一旦取り壊し、再度組み上げていった。

子供も参加し、炭を取り出したり、水をかけたり、袋に詰める作業を手伝った。「また、来たい」とのうれしい反応だった。

今後のスケジュールについて、近日中に話し合いを設け、次の炭焼きを計画することにする。

## H20.3.1（土）～H20.3.2（日）炭焼き釜づくり

いよいよ、炭焼き釜の作成に取り掛かった。



- その日は中地区の市役所職員で作る『中地区友の会』が、早朝よりパールラインマラソン前の清掃ボランティアを終えた後、手伝っていただいた。
  - 中地区友の会のメンバーには、前回竹の切り出しを行なって乾燥させていた竹を柳から運ぶ作業をお願いした。
  - 積み上げた煉瓦と、先日作っていたブロックとの間に泥を入れていったが、不慣れな作業のため、作業にあたったスタッフは後日腕が上がらなかったとか。
  - 二日目は『頼みの綱』寺尾有志の皆様にご協力いただいた。寺尾の岩本建設のダンプと経験があったおかげで、一日目とは比べ物にならない位作業がはかどった。
- 人が集まることで何でも出来ることを痛感した。感謝感謝。



# H20.3.15 (土) 火入れ

待ちに待った、火入れの日がやって来た。



朝から、竹を釜に入れる班、煙突を取り付ける班に分れて作業した。

竹もアバウトに90cmで揃えてあったので、束ねた後、出っ張った部分をチェーンソーでカットした。その作業は、朝から夕方まで貝場の松尾区長さんに頑張っていたいただいた。

竹酢液を採るため、煙突を15m延ばすよう段取りしていたが、取り付けについて、当初、竹を三脚に組んで延ばすように予定していたが、調整が難しく困難をきわめた。

- ・ボランティアで参加していた新開の野口末義さんから、急遽、単管パイプと接続部品をご提供いただき、見事15mの煙突を完成させた。
- ・火入れの作業は二日目の午前中に予定していたが、スタッフの頑張りのおかげで、土曜のうちに火入れ式を行い、念願の火が釜に入った。

# H20.3.16（日）火入れ二日目

## 竹酢液採取



炭焼きの指導者 益田さんも『同じ釜で焼いても、1回1回違う』というように、炭焼きは奥が深い。

なかなか、予定の温度に上がらなかった。

『失敗したか？』という雰囲気が出た瞬間、煙突に取り付けた温度計の針がぐんぐん上がり、竹酢液が滝のように滴り落ちてきた。

夕方には一旦解散したが、その日の夜に火の番をしていただいた北村班長は疲れも手伝って、風邪をひいてしまった。